

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY



※ P5682 参照



※ P5670 参照



※ P5674 参照

2022.5
No. 762

目次

[大学の動き]

- 理事が発令される 5665
- 副理事が発令される 5665
- 理事補が発令される 5665
- 部局長の交替等 5666
- 創立 125 周年記念ラッピングバスが運行開始 5670
- 第 8 回京都大学 - 稲盛財団合同京都賞シンポジウムを開催 5671
- 退職者功労表彰式を挙行 5672
- 名誉教授称号授与式を挙行 5673
- 第 14 回京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式を挙行 5674
- 令和 3 年度「総長賞表彰式」を挙行 5675
- 令和 3 年度卒業式を挙行 5676
- 令和 3 年度大学院学位授与式を挙行 5677
- 令和 4 年度学部入学式を挙行 5682
- 令和 4 年度大学院入学式を挙行 5684
- 寄附講座, 寄附研究部門の設置, 更新 5687

[部局の動き]

- 医学部附属病院が「教えて京大病院」シリーズ動画の YouTube 配信を開始 5692

- 第 5 回マヒドン大学オンサイトラボラトリーワークショップをオンラインで開催 5692
- 第 7 回京都大学・日本財団 森里海シンポジウムを開催 5694
- 京都大学創立 125 周年記念第 17 回京都大学附置研究所・センターシンポジウム / 京都大学松山講演会を開催 5695

[寸言]

- 京大で学んだ自由と好奇心の大切さ 井上 聡 5696

[随想]

- 沈黙の声に耳を傾ける 名誉教授 藤田 正勝 5697

[洛書]

- 宇治から架かる橋 倉田 真宏 5698

[榮譽]

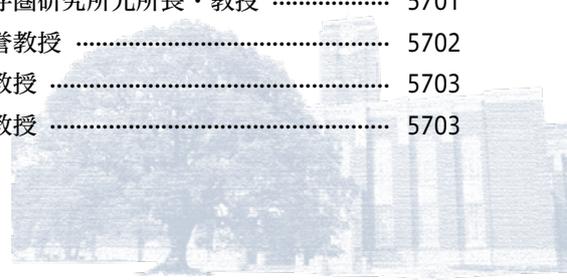
- 村上 章 理事・副学長, 野田 進 工学研究科教授が日本学士院賞を受賞 5699

[訃報]

- 塩谷 雅人 生存圏研究所元所長・教授 5701
- 柴田 俊忍 名誉教授 5702
- 三浦 精 名誉教授 5703
- 森 時彦 名誉教授 5703



京都大学



大学の
動き

理事が発令される

4月1日付けで新たに理事が任命されました。任期は令和6年3月31日まで。



オープンイノベーション担当
(非常勤)
澤田 拓子 (新任)



広報, 地域貢献・社会発信担当
野崎 治子 (新任)

[目次に戻る ↗](#)

副理事が発令される

4月1日付けで新たに副理事が任命されました。任期は下記のとおりです。



宇治・遠隔地キャンパス担当
中北 英一 (新任)
【令和5年3月31日まで】



労務, 事務改革, 報道対応,
コロナ対応総括担当
佐藤 昭博 (新任)
【令和4年9月30日まで】



企画調整担当
駒村 正章 (新任)
【令和4年9月30日まで】

[目次に戻る ↗](#)

理事補が発令される

【任期：令和4年4月1日～令和4年9月30日】

(補佐する理事)

国際担当理事	北 島 薫	生物生産環境学系 (大学院農学研究科) 教授	(新任)
研究担当理事 評価担当理事 産官学連携担当理事	松 浦 健 二	応用生物学系 (大学院農学研究科) 教授	(新任)

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

部局長の交替等

【新任】

文学研究科長・文学部長

木津祐子 文学系（大学院文学研究科）教授が、宇佐美文理 文学研究科長・文学部長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。



薬学研究科長・薬学部長

竹本佳司 薬学系（大学院薬学研究科）教授が、加藤博章 薬学研究科長・薬学部長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。



人間・環境学研究科長・総合人間学部長

浅野耕太 人間・環境学系（大学院人間・環境学研究科）教授が、小島泰雄 人間・環境学研究科長・総合人間学部長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。



アジア・アフリカ地域研究研究科長

竹田晋也 地域研究学系（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）教授が、重田眞義 アジア・アフリカ地域研究研究科長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。



公共政策連携研究部長・公共政策教育部長

待鳥聡史 法学系（大学院公共政策連携研究部）教授が、建林正彦 公共政策連携研究部長・公共政策教育部長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。



大学の
動き**経営管理研究部長・経営管理教育部長**

澤邊紀生 経済学系（大学院経営管理研究部）教授が、戸田圭一 経営管理研究部長・経営管理教育部長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。

**化学研究所長**

青山卓史 統合化学系（化学研究所）教授が、辻井敬亘 化学研究所長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。

**医生物学研究所長**

河本 宏 医生物学系（医生物学研究所）教授が、医生物学研究所長に選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。

**生存圏研究所長**

山本 衛 生存圏科学系（生存圏研究所）教授が、塩谷雅人 生存圏研究所長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。

**数理解析研究所長**

小野 薫 数理解析学系（数理解析研究所）教授が、熊谷 隆 数理解析研究所長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。

**東南アジア地域研究研究所長**

三重野文晴 地域研究学系（東南アジア地域研究研究所）教授が、速水洋子 東南アジア地域研究研究所長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。



大学の
動き**iPS 細胞研究所**

高橋 淳 iPS細胞学系 (iPS細胞研究所) 教授が, 山中伸弥 iPS細胞研究所長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。

**ヒト行動進化研究センター長**

中村克樹 全学教員部 (ヒト行動進化研究センター) 教授が, ヒト行動進化研究センター長に選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。

**学生総合支援機構長**

高倉喜信 薬学系 (大学院薬学研究科) 教授が, 学生総合支援機構長に選出されました。任期は令和4年4月1日から令和4年9月30日まで。

**人と社会の未来研究院長**

宇佐美文理 文学系 (大学院文学研究科) 教授が, 人と社会の未来研究院長に選出されました。任期は令和4年4月1日から令和4年9月30日まで。

**学際融合教育研究推進センター長**

時任宣博 理事が, 重田眞義 学際融合教育研究推進センター長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和4年9月30日まで。

**研究連携基盤長**

辻井敬亘 統合化学系 (化学研究所) 教授が, 渡辺隆司 研究連携基盤長の後任として選出されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。



【再任】**教育学研究科長・教育学部長**

楠見 孝 教育学系（大学院教育学研究科）教授が、教育学研究科長・教育学部長に再任されました。任期は令和4年4月1日から令和5年3月31日まで。

農学研究科長・農学部長

澤山茂樹 応用生物学系（大学院農学研究科）教授が、農学研究科長・農学部長に再任されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。

情報学研究科長

河原達也 情報学系（大学院情報学研究科）教授が、情報学研究科長に再任されました。任期は令和4年4月1日から令和5年3月31日まで。

地球環境学堂長・地球環境学舎長

勝見 武 地球工学系（大学院地球環境学堂）教授が、地球環境学堂長・地球環境学舎長に再任されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。

経済研究所長

西山慶彦 統合経済学系（経済研究所）教授が、経済研究所長に再任されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。

医学部附属病院長

宮本 享 臨床医学系（医学部附属病院）教授が、医学部附属病院長に再任されました。任期は令和4年4月1日から令和5年3月31日まで。

学術情報メディアセンター長

岡部寿男 情報学系（学術情報メディアセンター）教授が、学術情報メディアセンター長に再任されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。

高等教育研究開発推進センター長

飯吉 透 全学教員部（高等教育研究開発推進センター）教授が、高等教育研究開発推進センター長に再任されました。任期は令和4年4月1日から令和4年9月30日まで。

環境安全保健機構長

吉崎武尚（国際高等教育院）特定教授が、環境安全保健機構長に再任されました。任期は令和4年4月1日から令和4年9月30日まで。

アフリカ地域研究資料センター長

高橋基樹 地域研究学系（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）教授が、アフリカ地域研究資料センター長に再任されました。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日まで。

白眉センター長

赤松明彦 白眉センター特定職員（特任教授）が、白眉センター長に再任されました。任期は令和4年4月1日から令和5年3月31日まで。

[目次に戻る ↗](#)

創立125周年記念ラッピングバスが運行開始

6月18日の創立記念日に創立125周年の節目を迎えるにあたって、学外へ幅広く周知するため、京都駅から医学部附属病院を結ぶ「京大病院ライナー hoop（フープ）バス」と連携し、本学のエンブレムやロゴタイプなどのオリジナルデザインを施したラッピングバスの運行が3月30日（水）から始まりました。約半年間の予定で、市内の主要地を運行します。

hoopバスは、京都駅と本学周辺を結ぶ循環路線バスとして、2018年3月より運行されています。このたび、運行会社の株式会社ケイルック協力のもと、創立125周年記念ラッピングが実現しました。3月29日（火）に、創立記念日の6月18日（土）と翌19日（日）に開催する記念行事等についての記者説明会を行い、百周年時計台記念館前でラッピングバスをお披露目しました。このほか、本部棟1階ロビーに新設した「京都大学125年の歩み」と題した年表展示も披露しました。

また、この日の説明会では冒頭に、稲垣恭子 理事・副学長が「京都大学が自由の学風のもと創造の精神を涵養する学問の府として世界に存在感を示し続けるよう、教職員一同邁進する所存です」と挨拶しました。続いて、記念事業や各行事の概要等について、横山陽一 総務部渉外担当部長らから説明があり、参加した記者からは各行事の詳細などについての質問も寄せられました。



ラッピングバス



本部棟1階ロビーの年表展示

(総務部 (広報課))

[目次に戻る ↗](#)

第8回京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウムを開催

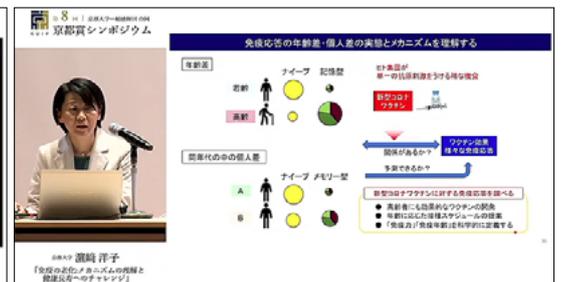
「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」(KUIP: Kyoto University-Inamori Foundation Joint Kyoto Prize Symposium) 第8回を、2月13日(日)に開催しました。本シンポジウムは2014年度から毎年開催しているもので、昨年度に引き続き、2021年度もオンラインで実施しました。

今回は、「免疫系による個体統御－がん、老化、脳、腸内細菌」を統一テーマとして、2016年に京都賞基礎科学部門を受賞した本庶 佑 医学研究科附属がん免疫総合研究センター長を中心に、濱崎洋子 iPS細胞研究所教授、村上正晃 北海道大学遺伝子病制御研究所教授、シドニア・ファガラサン 医学研究科附属がん免疫総合研究センター特定教授兼理化学研究所粘膜免疫研究チームリーダーの4名が講演しました。

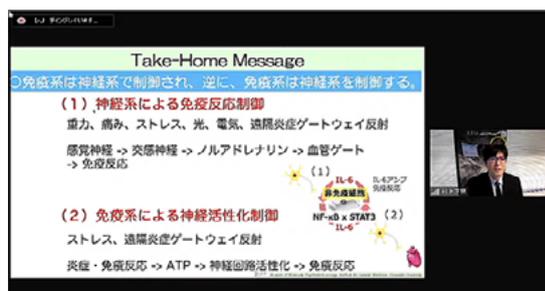
講演後には濱崎教授をモデレーターとして、講師3名とパネルディスカッションが行われ、研究の課題や、研究で困難に直面した際には柔軟な考えを持つこと、今までとは異なる方法を試してみることの重要性が語られました。視聴者から寄せられた質問への回答も行い、最後には研究者を目指す若い人々へのメッセージとして、「やりたいことをぜひ見つけてほしい」と締めくくられました。



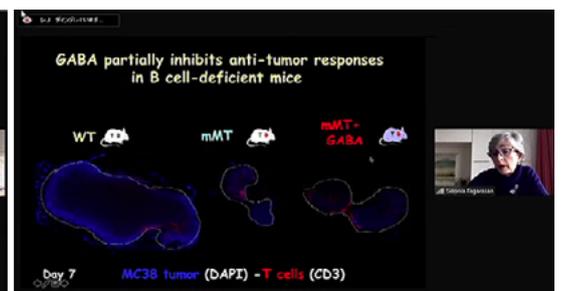
本庶センター長の講演



濱崎教授の講演



村上教授の講演



ファガラサン特定教授の講演



パネルディスカッションの様子

大学の
動き

一般市民，高校生，研究者など合わせて約1,150名の参加があり，「コロナに向き合う日々で経験してきたことに当てはめて話してくださるところは，素人にも理解しやすくありがたかったです」，「これからの展望のお話を聞いて目の前の研究だけではなく，常に先を見ていらっしゃるのだと感銘を受けました」，「研究職というとても辛抱のいる職業をやってらっしゃるみなさんからの，とりあえずトライして，行き詰まったら方法や視点を変えてみたり，時にはいったん放ってみたりするのも大切だという意見はとても説得力がありました」などの感想が寄せられました。

(総務部(渉外課))

[目次に戻る ↗](#)

退職者功労表彰式を挙行

3月31日(木)に，退職者功労表彰式を本部棟5階大会議室において挙行し，湊 長博 総長，被表彰者22名が出席しました。

退職者功労表彰式は，退職時において勤続年数が30年以上の教職員および有期雇用教職員に対し，その永年にわたる功労を讃えるため創設

したもので，2021年度末の被表彰者は34名でした。

表彰式では出席した被表彰者の氏名を紹介した後，総長が代表者に表彰状を授与し，祝辞を述べました。祝辞では永年本学の発展のために一人ひとりが尽力してきたことに対し，謝意が表されました。

祝辞の後は各々交流を深め，和やかな雰囲気の中，式は終了しました。



表彰状授与



祝辞を述べる湊総長



集合写真

(人事部(人事・労務課))

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

名誉教授称号授与式を挙

4月6日(水)午後4時から、百周年時計台記念館において、理事、監事、副理事、副学長の出席のもとに名誉教授称号授与式を挙

行了しました。
総長より称号を授与された方は、次の57名です。



氏名	推薦部局	氏名	推薦部局
長谷 あきら	国際高等教育院	矢持 秀起	理学研究科
Mori, James Jiro	防災研究所	渡辺 宏	化学研究所
重田 眞義	アジア・アフリカ地域研究研究科	橋本 学	防災研究所
岡野 憲一郎	教育学研究科	神崎 護	農学研究科
小林 哲生	工学研究科	梅津 千恵子	農学研究科
根立 研介	文学研究科	千坂 修	生命科学研究科
佐々木 徹	文学研究科	高田 昌彦	霊長類研究所
村上 正浩	工学研究科	北條 正樹	工学研究科
戸田 圭一	経営管理研究部	西平 直	教育学研究科
谷森 達	理学研究科	赤松 紀彦	人間・環境学研究科
杉山 弘	理学研究科	寶 馨	総合生存学館
松田 哲也	情報学研究科	水谷 雅彦	文学研究科
山田 啓文	工学研究科	前 一廣	工学研究科
堤 誉志雄	理学研究科	前野 悦輝	理学研究科
精山 明敏	医学研究科	鈴木 晶子	教育学研究科
奥田 敏広	人間・環境学研究科	長田 哲也	理学研究科
高林 純示	生態学研究センター	小柳 義夫	ウイルス・再生医科学研究所
江口 浩一	工学研究科	釜井 俊孝	防災研究所
杉浦 和子	文学研究科	多賀 茂	人間・環境学研究科
戸口田 淳也	ウイルス・再生医科学研究所	杉山 雅人	人間・環境学研究科
高橋 宏幸	文学研究科	椎名 毅	医学研究科
永井 靖浩	情報環境機構	小西 靖彦	国際高等教育院
岸本 泰明	エネルギー科学研究科	湯本 貴和	霊長類研究所
松井 徹	農学研究科	若林 靖永	経営管理研究部
小西 哲之	エネルギー理工学研究科	熊谷 隆	数理解析研究所
木村 剛	医学研究科	山田 亮	医学研究科
西上 欽也	防災研究所	時任 宣博	化学研究所

氏名	推薦部局
竹腰 清乃理	理学研究科
田中 茂信	防災研究所

氏名	推薦部局
藤田 幸一	東南アジア地域研究研究所

(人事部(人事・労務課))

[目次に戻る ↗](#)

第14回京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式を挙

優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰する制度である、京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)の第14回表彰式を3月3日(木)に挙行しました。表彰式は、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、昨年度と同様に今年度もウェブ会議システムを使用したライブ配信形式で実施し、学内外から多くの視聴がありました。

表彰式では、最初に選考委員長である稲垣恭子 理事・副学長から、選考経緯に関する報告を交えた開会の挨拶があり、引き続き、たちばな賞学生部門受賞者の中西智子さん(医学研究科博士課程4年)、研究者部門受賞者の小田裕香子 ウイルス・再生医科学研究所助教に、湊長博 総長から表彰状と記念楯が授与されました。続いて、副賞の「ワコール賞」が加茂下泰生 株式会社ワコール取締役常務執行役員から贈呈されました。

また、優秀女性研究者賞奨励賞受賞者の前田玉青さん(理学研究科博士後期課程2年)、川崎純菜さん(生命科学科博士後期課程3年)にも、同じく湊総長から表彰状と加茂下取締役常務執行役員から副賞の「ワコール賞」が贈呈されました。

その後、湊総長から受賞者へ祝福の言葉と女性研究者の更なる活躍を期待するエールが送



表彰状・記念楯授与の様子



受賞者および関係者



【写真左】 祝辞を述べる湊総長



【写真右】 祝辞を述べる加茂下取締役常務執行役員

大学の
動き

られ、加茂下取締役常務執行役員から受賞者へ祝辞が述べられました。

引き続き、たちばな賞受賞者による研究発表が行われ、中西さんは「大規模ゲノミクスによる呼吸器難治性疾患の遺伝的素因の解明と臨床的意義の検討」について、小田助教は「上皮組織の修復を促進する新規生理活性ペプチドの発見」について発表し、会場の関係者は熱心に聞き入っていました。最後に、村中孝史 理事・副学長から閉会の挨拶があり、盛況のうちに終了しました。

たちばな賞（優秀女性研究者賞）

学生部門 中西 智子 医学研究科博士課程4年

研究者部門 小田裕香子 ウイルス・再生医科学研究所助教

優秀女性研究者奨励賞

学生部門 前田 玉青 理学研究科博士後期課程2年

学生部門 川崎 純菜 生命科学研究科博士後期課程3年

(人事部(職員育成課))

[目次に戻る ↗](#)

令和3年度「総長賞表彰式」を挙

学業・課外活動・社会貢献活動等において顕著な活躍をし、本学の名誉を高めた学生および学生団体を表彰する「京都大学総長賞」の令和3年度表彰式を、3月16日(水)に挙行しました。

今回は、全24件の推薦の中から選考の結果、学業から5名、課外活動から1団体の受賞者を表彰しました。

今年度も新型コロナウイルス感染予防の観点から、表彰式は簡素化して行うこととなりました。湊 長博 総長が表彰状等の授与および講評を行った後、湊総長と受賞者が受賞内容について懇談を交わし、和やかな雰囲気の中、閉式となりました。

令和3年度 京都大学総長賞表彰者

被推薦者・団体名	推薦対象分野	推薦理由・受賞歴等
医学研究科医学専攻 DC 4 回生 ウエダ ジュン 上田 潤	学業	パーキンソン病モデルでのαシヌクレインの伝播を抑制する治療薬に関する重要な研究成果を世界で初めて報告し、国際学術誌に注目論文として掲載され、表紙にも採用された。 また学会にて最優秀演題賞を受賞した。
医学研究科京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻 DC 4 回生 ナカニシ トモコ 中西 智子	学業	マギル大学とのゲノム医学国際連携専攻在学中に、呼吸器難病や COVID-19 に関するゲノム解析を行い、Nature Medicine などに筆頭著者6報、共著10報の論文発表を含め優れた研究成果を上げた。
工学研究科材料化学専攻 DC 2 回生 フジイ イクヤ 藤井 郁哉	学業	変換困難なフッ化アリールを合成的に有用なグリニャール反応剤へと触媒的に変換する反応を世界で初めて開発し、本成果を米国化学会誌に掲載した。また、国内・国際学会において高く評価され、計6つの賞を受賞した。

大学の
動き

被推薦者・団体名	推薦対象分野	推薦理由・受賞歴等
経済学研究科経済学専攻 DC 3 回生 オガワ ショウゴ 小川 翔吾	学業	在学中に査読付国際学術誌に3本の論文を掲載し、優秀卒業論文受賞、経済学部卒業生副代表、優秀修士論文受賞、修士課程修了生代表、京都大学経済学部百周年記念賞受賞といった顕著な業績を有する。
医学部医学科 5 回生 オオコウチ ヤスシ 大河内 康之	学業	1細胞 RNA シーケンシング法による計測データから、遺伝子発現の空間的パターンをゲノム網羅的に再構成する機械学習法を開発した。この技術は多細胞組織の機能解明に貢献するものである。本成果は Nature Communications 誌に採択された。
京都大学囲碁部 (代表) 理学部 3 回生 ツイキ ミノル 立木 実	課外	第 65 回全日本大学囲碁選手権で優勝 (23 年ぶり)。



表彰式の様子



受賞者および関係者

(教育推進・学生支援部(厚生課))

[目次に戻る](#)

令和3年度卒業式を挙行

3月24日(木)9時30分より、京都市勧業館みやこめっせにおいて、井村裕夫 元総長、各理事・副学長、各部局長等の出席のもと、令和3年度卒業式を挙行しました。



学位記授与の様子



記念撮影をする卒業生

大学の
動き

湊 長博 総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。
 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度と同様にご家族の方の来場はご遠慮
 いただき、式典の様子はインターネットで同時配信しました。

学位授与者数は次のとおりです。

学士

学位名	2022年3月10日, 24日付卒業生数			左記のうち留学生数			旧制 卒業生数	累 計
	男	女	計	男	女	計		
学士（総合人間学）	92	50	142	1	1	2	-	3,331
学士（文学）	135	93	228	1	1	2	4,711	18,250
学士（教育学）	37	27	64	0	0	0	-	3,957
学士（法学）	232	85	317	0	1	1	14,531	39,389
学士（経済学）	204	51	255	3	5	8	8,067	24,449
学士（理学）	251	28	279	0	0	0	2,984	20,372
学士（医学）※ ¹	94	16	110	0	0	0	5,673	13,163
学士（人間健康科学）※ ¹	39	89	128	0	0	0	-	2,024
学士（薬学）※ ¹ ※ ²	12	16	28	0	0	0	-	4,060
学士（薬科学）	42	27	69	1	0	1	-	692
学士（工学）	911	110	1,021	19	17	36	8,606	67,301
学士（農学）	186	123	309	2	2	4	3,392	21,494
小 計	2,235	715	2,950	27	27	54	47,964	218,482
附属医学専門部	-	-	-	-	-	-	804	804
理工科大学	-	-	-	-	-	-	944	944
総 計	2,235	715	2,950	27	27	54	49,712	220,230

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

※1：医学部（医学）は平成22年度より3月10日付け卒業

薬学部（薬学）は平成26年度より3月10日付け卒業

医学部（人間健康科学）は平成29年度より3月10日付け卒業

※2：薬学部（薬学）は4年制の薬学部（薬学）を含む（平成18年度より6年制に改組）

（教育推進・学生支援部（教務企画課））

[目次に戻る ↗](#)

令和3年度大学院学位授与式を挙行

3月24日（木）14時00分より、京都市勧業館みやこめっせにおいて、各理事・副学長、各
 部局長等の出席のもとに、令和3年度大学院学位授与式を挙行しました。

湊 長博 総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度と同様にご家族の方の来場はご遠慮
 いただき、式典の様子はインターネットで同時配信しました。

学位授与者数は次のとおりです。

大学の
動き

修士

学位名	2022年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
修士（文学）	59	53	112	11	17	28	5,487
修士（教育学）	20	18	38	1	1	2	1,666
修士（法学）	9	5	14	6	5	11	1,558
修士（経済学）	24	23	47	13	19	32	2,053
修士（理学）	233	44	277	6	3	9	12,096
修士（医科学）	16	12	28	5	7	12	436
修士（人間健康科学）	23	46	69	2	4	6	748
修士（薬科学）	34	15	49	0	4	4	694
修士（工学）	598	88	686	56	25	81	35,347
修士（農学）	179	105	284	13	11	24	11,570
修士（人間・環境学）※ ¹	96	63	159	11	24	35	3,943
修士（エネルギー科学）	117	16	133	8	7	15	3,048
修士（地域研究）※ ²	12	12	24	0	0	0	472
修士（情報学）	164	9	173	24	5	29	4,191
修士（生命科学）	33	34	67	2	3	5	1,674
修士（総合学術）※ ²	5	5	10	0	0	0	64
修士（地球環境学）	16	25	41	4	11	15	744
修士（社会健康医学）	-	-	-	-	-	-	66
修士（薬学）	-	-	-	-	-	-	2,299
総計	1,638	573	2,211	162	146	308	88,156

※留学生は在留資格「留学」のみの数

※1：修士（人間・環境学）は、累計に一貫制博士課程の修士修了相当授与者9名含む

※2：修士（地域研究）および修士（総合学術）は、一貫制博士課程の修士修了相当授与者のみ

修士（専門職）

学位名	2022年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
社会健康医学修士（専門職）	23	17	40	1	2	3	562
公共政策修士（専門職）	24	13	37	2	4	6	604
経営学修士（専門職）	65	34	99	18	16	34	1,187
総計	112	64	176	21	22	43	2,353

※留学生は在留資格「留学」のみの数

法務博士（専門職）

学位名	2022年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
法務博士（専門職）	88	41	129	0	0	0	2,648
総計	88	41	129	0	0	0	2,648

大学の
動き

博士

令和3年11月24日付け、令和4年1月24日付け、3月23日付け

■課程博士

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年11月			2022年1月			2022年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	0	0	0	4	0	4	12	6	18	22	1,196
	0	0	0	1	0	1	5	2	7	8	
博士（教育学）	0	0	0	0	0	0	6	3	9	9	275
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	11	5	16	16	409
	0	0	0	0	0	0	3	2	5	5	
博士（経済学）	0	0	0	0	0	0	9	0	9	9	735
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
博士（理学）	3	0	3	4	0	4	67	10	77	84	5,912
	1	0	1	1	0	1	9	4	13	15	
博士（医学）	8	1	9	7	1	8	47	17	64	81	10,601
	0	0	0	0	1	1	4	2	6	7	
博士（医科学）	0	0	0	3	0	3	2	3	5	8	139
	0	0	0	1	0	1	1	2	3	4	
博士（社会健康医学）	0	0	0	1	0	1	3	2	5	6	123
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間健康科学）	0	1	1	0	0	0	3	4	7	8	101
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	6	2	8	8	1,165
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	11	1	12	12	157
	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	
博士（工学）	4	0	4	3	1	4	73	9	82	90	6,399
	2	0	2	1	1	2	20	5	25	29	
博士（農学）	2	0	2	1	1	2	24	8	32	36	3,154
	1	0	1	0	0	0	4	4	8	9	
博士（人間・環境学）	2	2	4	0	0	0	17	15	32	36	1,047
	1	2	3	0	0	0	3	2	5	8	
博士（エネルギー科学）	2	0	2	0	0	0	13	2	15	17	447
	1	0	1	0	0	0	5	2	7	8	
博士（地域研究）	0	0	0	0	1	1	4	11	15	16	305
	0	0	0	0	1	1	2	3	5	6	
博士（情報学）	1	1	2	0	0	0	14	2	16	18	798
	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4	

大学の
動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年11月			2022年1月			2022年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（総合学術）※ ¹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	0	1	1	1	0	1	8	3	11	13	479
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
博士（総合学術）※ ²	0	1	1	0	0	0	1	2	3	4	25
	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
博士（地球環境学）	0	2	2	0	0	0	3	7	10	12	229
	0	1	1	0	0	0	1	5	6	7	
博士（経営科学）	0	0	0	0	0	0	5	0	5	5	23
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総計	22	9	31	24	4	28	339	112	451	510	33,721
	6	4	10	4	3	7	64	35	99	116	

※留学生は在留資格「留学」のみの数

※1：情報学研究科修了 ※2：総合生存学館修了

■論文博士

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年11月			2022年1月			2022年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	2	1	3	1	0	1	4	3	7	11	664
	0	0	0	1	0	1	1	0	1	2	
博士（教育学）	1	0	1	0	0	0	0	1	1	2	180
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	203
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
博士（経済学）	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	409
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（理学）	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2	1,578
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（医学）	6	0	6	4	2	6	3	0	3	15	2,256
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（医科学）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	8
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（社会健康医学）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	17
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

大学の
動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年11月			2022年1月			2022年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（人間健康科学）	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	10
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	773
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	5
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（工学）	2	0	2	0	0	0	2	0	2	4	4,199
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（農学）	1	0	1	0	0	0	1	0	1	2	2,900
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間・環境学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（エネルギー科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（情報学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	96
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地球環境学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総計	12	2	14	6	2	8	16	6	22	44	13,488
	0	0	0	1	0	1	2	0	2	3	

※留学生は外国人学生の数

■博士課程教育リーディングプログラム（博士課程の内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年11月			2022年1月			2022年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
京都大学大学院思修館	0	1	1	0	0	0	1	2	3	4	28
	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
グローバル生存学大学院連携プログラム	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	48
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3	28
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	

大学の
動き

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年11月			2022年1月			2022年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
デザイン学大学院連携プログラム	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	28
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	
霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	20
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
総計	0	1	1	0	0	0	5	6	11	12	152
	0	1	1	0	0	0	1	3	4	5	

※留学生は在留資格「留学」のみの数

■卓越大学院プログラム（博士課程の内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年11月			2022年1月			2022年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
先端光・電子デバイス創成学	0	0	0	0	0	0	12	0	12	12	15
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
総計	0	0	0	0	0	0	12	0	12	12	15
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	

※留学生は在留資格「留学」のみの数



学位記を手渡す湊総長



式典に臨む修了生

教育推進・学生支援部（教務企画課）

[目次に戻る ↗](#)

令和4年度学部入学式を挙行

4月7日（木）9時30分より、京都市勧業館みやこめっせにおいて、山極壽一 前総長、各理事・副学長、各部局長等の出席のもとに、令和4年度学部入学式を挙行しました。式典では、湊 長博 総長による式辞がありました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度と同様にご家族の方の来場はご遠慮いただき、式典の様子はインターネットで同時配信しました。

大学の
動き



式辞を述べる湊総長



式典の様子

今年度の入学者数は次のとおりです。

令和4年度 学部入学者数

令和4年4月1日現在

区分	一般入試 (前期)		外国学校 出身者選抜		外国人留學生 特別選抜		学士入学		再入学		特色入試		編入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女		女		女		女	
総合人間 学部	88	118	0	0	0	2	0	0	1	1	3	5	0	0	92	126
	30		0		2		0		2		0					
文学部	130	216	0	0	1	1	1	2	0	0	3	9	0	0	134	228
	86		0		1		1		0		6		0			
教育学部	28	56	0	0	1	1	0	0	0	0	2	5	2	9	32	71
	28		0		1		0		0		3		7			
法学部	234	308	3	5	0	1	0	0	0	0	14	22	2	4	253	340
	74		2		1		0		0		8		2			
経済学部	182	219	4	9	1	4	0	0	0	0	9	15	2	4	198	251
	37		5		3		0		0		6		2			
理学部	283	310	0	0	3	5	0	0	0	0	6	10	0	0	292	325
	27		0		2		0		0		4		0			
医学部(医 学科)	89	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	89	110
	20		0		0		0		0		1		0			
医学部(人間 健康科学科)	41	83	0	0	0	0	0	0	0	0	5	22	0	3	46	108
	42		0		0		0		0		17		3			
薬学部	57	83	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2	0	0	59	86
	26		0		0		0		0		1		0			
工学部	850	931	0	0	23	31	0	0	0	0	8	16	3	4	884	982
	81		0		8		0		0		8		1			

大学の
動き

区分	一般入試 (前期)		外国学校 出身者選抜		外国人留学 生特別選抜		学士入学		再入学		特色入試		編入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女		女		女		女	
農学部	186	298	0	0	1	3	0	0	0	0	4	10	0	0	191	311
	112		0		2		0		6		0		120			
総計	2,168	2,731	7	14	29	49	1	2	1	1	55	117	9	24	2,270	2,938
	563		7		20		1		0		62		15		668	

教育推進・学生支援部(教務企画課)

[目次に戻る](#)

令和4年度大学院入学式を挙行

4月7日(木) 14時00分より、京都市勧業館みやこめっせにおいて、各理事・副学長、各部局長等の出席のもとに、令和4年度大学院入学式を挙行しました。式典では、湊 長博 総長による式辞がありました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度と同様にご家族の方の来場はご遠慮いただき、式典の様子はインターネットで同時配信しました。



式辞を述べる湊総長



式典に臨む入学生

今年度の入学者数は次のとおりです。

令和4年度 修士課程入学者数

令和4年4月1日現在

区分	入学			再/転入学			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学研究科	76 (9)	49 (11)	125 (20)	3	2	5	79 (9)	51 (11)	130 (20)
教育学研究科	23 (1)	14 (3)	37 (4)	0	0	0	23 (1)	14 (3)	37 (4)
法学研究科	7 (3)	6 (4)	13 (7)	0	0	0	7 (3)	6 (4)	13 (7)
経済学研究科	40 (19)	26 (20)	66 (39)	0	0	0	40 (19)	26 (20)	66 (39)
理学研究科	234 (7)	26 (2)	260 (9)	0	0	0	234 (7)	26 (2)	260 (9)

大学の
動き

区分	入学			再/転入学			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
医学研究科(医学専攻等)	13 (7)	15 (8)	28 (15)	0	0	0	13 (7)	15 (8)	28 (15)
医学研究科(人間健康科学系専攻)	28 (0)	49 (0)	77 (0)	0	0	0	28 (0)	49 (0)	77 (0)
薬学研究科	35 (3)	24 (2)	59 (5)	0	0	0	35 (3)	24 (2)	59 (5)
工学研究科	630 (37)	105 (25)	735 (62)	0	0	0	630 (37)	105 (25)	735 (62)
農学研究科	181 (8)	137 (15)	318 (23)	0	0	0	181 (8)	137 (15)	318 (23)
人間・環境学研究科	82 (16)	59 (20)	141 (36)	0	0	0	82 (16)	59 (20)	141 (36)
エネルギー科学研究科	126 (5)	11 (1)	137 (6)	0	0	0	126 (5)	11 (1)	137 (6)
情報学研究科	175 (18)	12 (3)	187 (21)	0	0	0	175 (18)	12 (3)	187 (21)
生命科学研究科	30 (2)	36 (3)	66 (5)	0	0	0	30 (2)	36 (3)	66 (5)
地球環境学舎	16 (7)	21 (15)	37 (22)	0	0	0	16 (7)	21 (15)	37 (22)
総計	1,696 (142)	590 (132)	2,286 (274)	3	2	5	1,699 (142)	592 (132)	2,291 (274)

※()内は、外国人留学生(留学ビザ留学生)で、内数

令和4年度 専門職学位課程入学者数

令和4年4月1日現在

区分	合計		
	男	女	計
法学研究科(法科大学院)	108 (1)	47 (1)	155 (2)
医学研究科	14 (0)	19 (3)	33 (3)
公共政策教育部	32 (3)	5 (0)	37 (3)
経営管理教育部	53 (10)	47 (29)	100 (39)
総計	207 (14)	118 (33)	325 (47)

※()内は、外国人留学生(留学ビザ留学生)で、内数

令和4年度 博士(後期)課程入学者数

令和4年4月1日現在

区分	進学		入学		編入学		再入学/転入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
文学研究科 博士後期課程	26(4)	41(10)	0	0	6(2)	9(4)	0	0	32(6)	50(14)
	15(6)		0		3(2)		0		18(8)	
教育学研究科 博士後期課程	10(1)	17(1)	0	0	4(1)	10(2)	0	0	14(2)	27(3)
	7(0)		0		6(1)		0		13(1)	
法学研究科 博士後期課程	8(2)	10(3)	0	0	2(1)	6(1)	0	0	10(3)	16(4)
	2(1)		0		4(0)		0		6(1)	

大学の
動き

区分	進学		入学		編入学		再入学/転入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
経済学研究科 博士後期課程	6(1)	7(2)	0	0	2(0)	4(1)	0	0	8(1)	11(3)
	1(1)		0		2(1)		0		3(2)	
理学研究科 博士後期課程	93(5)	106(5)	0	0	20(11)	26(14)	0	0	113(16)	132(19)
	13(0)		0		6(3)		0		19(3)	
医学研究科 博士後期課程	10(4)	14(6)	0	0	11(4)	17(9)	0	0	21(8)	31(15)
	4(2)		0		6(5)		0		10(7)	
医学研究科 博士課程(四年) ^{*1}	1(0)	3(1)	120(10)	176(30)	0	0	0	0	121(10)	179(31)
	2(1)		56(20)		0		58(21)			
医学研究科(人間 健康科学系専攻) 博士後期課程	3(1)	9(4)	0	0	2(0)	3(0)	0	0	5(1)	12(4)
	6(3)		0		1(0)		0		7(3)	
薬学研究科 博士後期課程	9(0)	12(2)	0	0	1(0)	2(0)	3	3	13(0)	17(2)
	3(2)		0		1(0)		0		4(2)	
薬学研究科 博士課程(四年)	0	0	3(0)	4(0)	0	0	0	0	3(0)	4(0)
	0		1(0)		0		0		1(0)	
薬学研究科 博士課程(一貫)	0	0	10(0)	14(0)	0	0	0	0	10(0)	14(0)
	0		4(0)		0		0		4(0)	
工学研究科 博士後期課程	58(13)	68(18)	0	0	47(22)	54(28)	0	0	105(35)	122(46)
	10(5)		0		7(6)		0		17(11)	
農学研究科 博士後期課程	32(8)	47(12)	0	0	10(1)	21(3)	0	0	42(9)	68(15)
	15(4)		0		11(2)		0		26(6)	
人間・環境学研究科 博士後期課程	22(5)	38(8)	0	0	17(5)	26(11)	0	0	39(10)	64(19)
	16(3)		0		9(6)		0		25(9)	
エネルギー科学研究科 博士後期課程	9(3)	10(4)	0	0	6(3)	8(5)	0	0	15(6)	18(9)
	1(1)		0		2(2)		0		3(3)	
アジア・アフリカ 地域研究研究科 博士課程(一貫)	0	0	7(0)	28(3)	1(1)	3(2)	0	0	8(1)	31(5)
	0		21(3)		2(1)		0		23(4)	
情報学研究科 博士後期課程	23(10)	26(12)	0	0	8(3)	12(5)	0	0	31(13)	38(17)
	3(2)		0		4(2)		0		7(4)	
生命科学研究科 博士後期課程	8(0)	16(3)	0	0	1(1)	6(4)	0	0	9(1)	22(7)
	8(3)		0		5(3)		0		13(6)	
地球環境学舎 博士後期課程	2(0)	6(2)	0	0	3(3)	7(5)	0	0	5(3)	13(7)
	4(2)		0		4(2)		0		8(4)	

大学の
動き

区分	進学		入学		編入学		再入学/転入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
経営管理教育部 博士後期課程	2(0)	2(0)	0	0	4(0)	5(0)	0	0	6(0)	7(0)
	0		0		1(0)		0			
総合生存学館 博士課程(一貫)	0	0	10(4)	19(8)	0	0	0	0	10(4)	19(8)
	0		9(4)		0		0			
総計	322(57)	432(93)	150(14)	241(41)	145(58)	219(94)	3(0)	3(0)	620(129)	895(228)
	110(36)		91(27)		74(36)		0		275(99)	

※1:進学3名は、本学他研究科修士課程または専門職課程修了後、当該課程に進学した者
 ※()内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数

(教育推進・学生支援部(教務企画課))

[目次に戻る ↗](#)

寄附講座，寄附研究部門の設置，更新

呼吸管理睡眠制御学講座(更新)	
1. 部局名	大学院医学研究科
2. 名称 (英名)	呼吸管理睡眠制御学講座 (Department of Respiratory Care and Sleep Control Medicine)
3. 寄附者	株式会社フィリップス・ジャパン，フクダ電子株式会社， フクダライフテック京滋株式会社， レスメド株式会社
4. 寄附金額	総額 106,500,000 円
5. 設置期間	令和3年4月1日～令和6年3月31日 (平成20年4月1日設置)
6. 担当教員	寄附講座教員(特定准教授) 佐藤 晋 寄附講座教員(特定助教) 長崎 忠雄 寄附講座教員(特定助教) 砂留 広伸 寄附講座教員(特定助教) 十川 純平
7. 設置目的	(1) 覚醒・睡眠中を含めた24時間の呼吸管理を行い，多臓器疾患領域における重篤患者の治療成績の向上をめざす。 (2) 呼吸・睡眠障害が各種病態に与える影響を学際的に検討し，疾患の発症予防や予後改善につながる新規治療法の開発をめざす。 (3) 呼吸管理・睡眠医学に習熟した医師および指導者の育成を行う。

大学の
動き

8. 活動内容	<p>(1) 間歇的低酸素, 持続的低酸素, 高二酸化炭素血症が生体に与える影響を, 人, 動物, 細胞・分子生物学的に検討する。</p> <p>(2) 上記血液ガス異常による循環障害, 代謝障害の影響を解明し, 同障害を起こしやすい人の遺伝子的検索を行う。</p> <p>(3) 侵襲的・非侵襲的呼吸管理法の有効利用法を検討する。</p> <p>(4) 24時間の呼吸管理による, 術後合併症の予防と, 難治病態の治療成績の向上をめざす呼吸の分子生物, 生理, 調節の研究を行う。</p> <p>(5) 睡眠呼吸障害領域における CPAP などにかわる新しい治療法の確立, 創薬を展開する。</p>
---------	--

運動器機能再建学講座 (更新)

1. 部局名	大学院医学研究科
2. 名称 (英名)	運動器機能再建学講座 (Department of Musculoskeletal Reconstruction)
3. 寄附者	京セラ株式会社
4. 寄附金額	総額 72,000,000 円
5. 設置期間	令和3年4月1日 ~ 令和5年3月31日 (平成27年4月1日設置)
6. 担当教員	寄附講座教員 (特定教授) 藤林 俊介 寄附講座教員 (特定助教) 中村 伸一郎 寄附講座教員 (特定助教) 西谷 江平
7. 設置目的	運動機能再建, 特に人工関節置換に関する教育を行い, 人工関節をバイオメカニクスおよびマテリアルの観点から解析・検証し, 革新的な次世代人工関節を開発することを目的とする。
8. 活動内容	(1) 関節機能の3次元解析 (2) 人工関節術後の動態解析 (3) 人工股関節術後の摩耗計測

グローバル社会起業寄附講座 (更新)

1. 部局名	経営管理研究部
2. 名称 (英名)	グローバル社会起業寄附講座 (Global Social Entrepreneurship)
3. 寄附者	Sachiko Kuno Foundation, Inc
4. 寄附金額	総額 30,000,000 円
5. 設置期間	令和3年4月1日 ~ 令和6年3月31日 (平成30年4月1日設置)
6. 担当教員	教授 原 良憲 寄附講座教員 (客員准教授) 村井 暁子 寄附講座教員 (客員准教授) 深見 真希
7. 設置目的	グローバルな場を対象とし, 社会的に持続可能かつ経済的にも意義のある組織のマネジメント, 事業開発の教育研究を行い, グローバル社会起業を推進する専門家の養成を進めることを目的としている。

大学の
動き

8. 活動内容	<p>講座キャッチフレーズ： “グローバルな課題解決に貢献するスキルとセンスを磨き具体策を提示する” 社会起業家の育成のためのカリキュラム開発及び以下の講義開講を行う。また、グローバル社会起業やイノベーションに関する基礎研究を行い、当該教育プログラムの質の向上に貢献する。</p> <p>(1) グローバル社会起業論－持続可能な開発目標への貢献 (2) グローバル社会起業論－新しいリーダーシップの在り方の模索 (3) ソーシャル・イノベーション事例分析</p>
---------	---

地震リスク評価高度化（阪神コンサルタンツ）研究分野（更新）

1. 部局名	防災研究所
2. 名称 (英名)	地震リスク評価高度化（阪神コンサルタンツ）研究分野 (Sophisticated Earthquake Risk Evaluation (Hanshin Consultants))
3. 寄附者	株式会社阪神コンサルタンツ
4. 寄附金額	総額 40,000,000 円
5. 設置期間	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (平成30年4月1日設置)
6. 担当教員	寄附研究部門教員（特任教授） 川瀬 博 寄附研究部門教員（特定助教） 長嶋 史明 寄附研究部門教員（特定研究員） 伊藤 恵理 寄附研究部門教員（特定研究員） ソン・ジカイ
7. 設置目的	複雑化している地震災害のリスク評価とその低減策に関し、近年の地震およびそれに伴う被害事例調査や地球物理学的・地形地質学的調査に基づき理論的・実証的な評価体系の高度化をはかる。
8. 活動内容	地盤調査とそれをを用いた地震動評価の実務に携わる民間法人からの寄附に基づくという特徴を踏まえ、震源の微視的な動的破壊過程と表層地盤の複雑かつ非線形な地震動増幅特性を考慮した強震動の予測技術の高度化を図るとともに、過去の地震災害の調査結果に基づいてそれを再現する震源破壊過程のモデル化を行って、木造建物被害予測モデルで観測被害を再現し、現状実用に供されている平均的な地震像に対する検証を行い、必要な高度化について検討する。

環境微生物学研究部門（更新）

1. 部局名	エネルギー理工学研究所
2. 名称 (英名)	環境微生物学研究部門 (Department of Environmental Microbiology Research)
3. 寄附者	株式会社 竹中工務店大阪本店、東洋ガラス株式会社
4. 寄附金額	総額 50,000,000 円
5. 設置期間	令和3年4月1日～令和6年3月31日 (平成30年4月1日設置)
6. 担当教員	寄附研究部門教員（特定教授） 原 富次郎 寄附研究部門教員（特定准教授） 高塚 由美子

大学の
動き

7. 設置目的	本寄附研究部門は、微生物生化学を環境・エネルギー学へ融合展開する実践的な研究を行うことで、持続的社会的発展に向けた生物エネルギー利用を社会実装化する。
8. 活動内容	微生物酵素の利用によって環境・エネルギー領域における喫緊の社会的課題を解決するもので、主には「環境汚染の浄化」と「生物的防除」の新開拓をめざす。

アート・コミュニケーションデザインと組織経営（設置）

1. 部局名	経営管理大学院
2. 名称 (英名)	アート・コミュニケーションデザインと組織経営 (Art, Communication Design and Organizational Management)
3. 寄附者	一般社団法人 アートをコアとしたコミュニケーションデザイン大学コンソーシアム
4. 寄附金額	総額 36,000,000 円
5. 設置期間	令和3年4月1日～令和6年3月31日
6. 担当教員	寄附講座教員(特定准教授) 運行 寄附講座教員(特定助教) 末長 英里子
7. 設置目的	組織経営にアートおよびコミュニケーションデザインの知見を活かすための方策に関して、教育活動及び研究活動を行う。
8. 活動内容	組織やチームとして創造性を発揮しイノベーションにつなげ、持続可能な組織経営を実現していくために、組織内でアート思考およびコミュニケーションデザインの知見を活かすための方策に関して、教育研究活動に取り組む。教育活動としては、2022年度から、前期・後期それぞれ1科目の授業を開講する。アート思考やコミュニケーションデザインへの理解を深め、それを組織やチームで活かすための手法を学ぶ科目を提供する。研究活動としては、教育プログラム受講により生じる学習者からのアウトプットの質変化に関する研究や、企業・自治体・非営利団体等の各セクターにおける実装に向けたプログラム開発の研究等に取り組む。

神経機能回復・再生医学講座（設置）

1. 部局名	大学院医学研究科
2. 名称 (英名)	神経機能回復・再生医学講座 (Department of Regenerative Systems Neuroscience)
3. 寄附者	一般財団法人 児玉財団
4. 寄附金額	総額 90,000,000 円
5. 設置期間	令和3年4月1日～令和6年3月31日
6. 担当教員	寄附講座教員(特定准教授) 小金丸 聡子 寄附講座教員(特定助教) 島 淳

大学の
動き

7. 設置目的	近年、ニューロリハビリテーションがリハビリテーション医学に革新を起こすことの期待が高まっている一方で、ニューロリハビリテーションは未だ発展途上の技術でもあり、特に再生医学との融合には世界的にもほとんど手が付いていない。そこで、京都大学医学研究科の強みである再生医学研究を、高次脳神経科学の複数の講座が開発している神経工学技術と融合させることで、革新的な再生医学、神経工学とリハビリテーションの融合技術開発研究を行うための講座を設置するものである。
8. 活動内容	関連講座と密接に連携しつつ、パーキンソン病、脳卒中、脊髄損傷などの精神・神経損傷疾患を対象とした電気・磁気による非侵襲脳刺激や脳波などから意図を解釈し外部機器を駆動する技術であるブレイン・マシン・インターフェイス（BMI）等を用いた先進的なニューロリハビリテーションの開発研究に参画し、その臨床への橋渡し研究について中核的な役割を担う。ニューロリハビリテーション技術を、iPS に由来する組織の移植治療等の再生医療と組み合わせることで、移植治療の効果を最大限に発揮させる技術の開発にも加わる。併せて、医学研究科が有する 7T MRI などの神経画像技術を活用し、ニューロリハビリテーション効果の背景となる神経可塑性変化に関わる研究を推進することで、脳機能総合研究センターの活動を活性化させる。

SHIFT (DAAE) 寄附講座 (設置)

1. 部局名	経営管理研究部
2. 名称 (英名)	SHIFT (DAAE) 寄附講座 (SHIFT (DAAE) Endowed Chair)
3. 寄附者	株式会社 SHIFT
4. 寄附金額	総額 60,000,000 円
5. 設置期間	令和 4 年 1 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日
6. 担当教員	寄附講座教員 (特命教授) 丹下 大 寄附講座教員 (客員教授) 山本 康正 寄附講座教員 (客員准教授) 山梨 剛史 寄附講座教員 (客員准教授) 日置 孝一 教授 砂川 伸幸
7. 設置目的	SHIFT 社と共同で、DX 経営と ESG 経営に関する研究を行い、研究成果を取り入れた教育プログラムの開発と実践を行う。とくに DAAE (Design, Agility (迅速性), Assembly (組合せ), Economic Quality (経済品質)) を取り上げる。ESG 経営の分野では、事例研究やデータ分析を行う。
8. 活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ DAAE を用いた DX 経営モデルや DX 事業モデルの体系化 ・ ESG 経営の要素を追加し、DX 経営や DX 事業を行う人財育成やスタートアップに必要な教育プログラムを作成・展開 ・ 体系化した経営モデルを、書物やウェブを通じて発表 ・ 教育プログラムは、標準的な MBA 科目と DX 経営、ESG 関連の専門科目を組合せた講座として、京都大学東京オフィスなどで開講 <p>これらの取り組みを通じて、企業 DX を推進する立場となる多くの人材に DX 推進の啓蒙とノウハウの浸透を図る。</p>

(研究推進部 (研究推進課))

[目次に戻る ↗](#)



医学部附属病院が「教えて京大病院」シリーズ動画の YouTube 配信を開始

医学部附属病院では、身近にあるさまざまな疾患について、同院の医師が分かりやすく解説した動画「教えて京大病院」シリーズの配信を、同院公式 YouTube チャンネルにて開始しました。

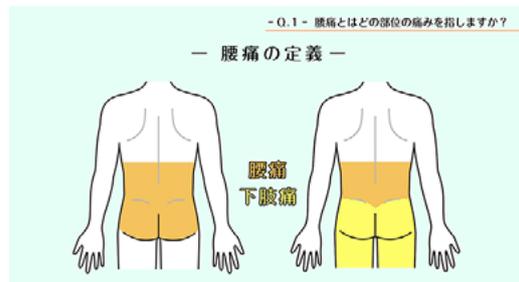
本シリーズは、大学病院として正確な医療情報を一般の方々へ広く発信することを目的としており、動画内では、それぞれの疾患の原因や治療法、予防方法などを発信します。

シリーズ第1回は「腰痛」がテーマです。腰痛の原因となる生活習慣や、腰痛になった場合の対処方法の解説、腰痛の手術などを紹介しています。

今後も「高血圧」や「胃がん」など、身近にある様々な疾患を取り上げていきます。

◆腰痛のハナシ ～前編～

<https://youtu.be/3KtcGOlQHgE>



◆腰痛のハナシ ～後編～

<https://youtu.be/mZdtuOAnFNU>



京大病院公式 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/c/KUHPofficial>



(医学部附属病院)

[目次に戻る ↗](#)

第5回マヒドン大学オンサイトラボラトリーワークショップをオンラインで開催

第5回マヒドン大学 On-site Laboratory ワークショップを3月11日(金)に、オンラインにて開催しました。本学は、指定国立大学法人構想の柱の一つとして掲げた「柔軟かつダイナミックな体制による知の創造」を実現する取り組みとして、海外の大学や研究機関と共同で現地

部局の
動き

運営型研究室 (On-site Laboratory) を設置しています。地球環境学堂は、2018年からマヒドン大学とともに On-site Laboratory プログラムに参入し、「京都大学 On-site Laboratory 『Mahidol 環境学教育・研究拠点』」の活動を展開してきました。

第5回目となる本ワークショップは地球環境学堂が主催し、新型コロナウイルス感染症の影響により昨年に引き続きオンラインでの開催となったものの、本学とマヒドン大学を中心に研究者や学生116名(京都大学57名, マヒドン大学54名, その他5名)が参加しました。

当日午前, 河野泰之 副学長と Banchong Mahaisavariya マヒドン大学学長による開催の辞から始まり, 次に藤井滋穂 名誉教授(地球環境学堂)から, オンサイトラボラトリー Mahidol 環境学教育・研究拠点の概要および近年の取り組みについての講演がありました。

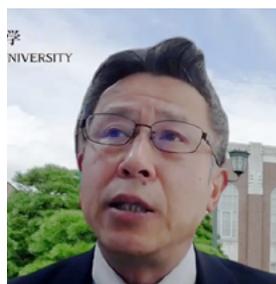
続いて, (1) 地球環境工学, (2) 化学工学, (3) 農学・生態系, (4) 公衆衛生の4つの分野に分かれ, 京都大学およびマヒドン大学双方の研究者から近年の研究成果や教育・研究活動の展開について情報交換が行われました。

午後からは, Special Session 「Decentralized water and waste management systems in rural areas」が開かれ, 京都大学とマヒドン大学が新たに立ち上げた最新の共同研究プロジェクトについて話題提供が行われました。

その後, Plenary Session では, 午前中に行われた分科会の内容について, 各分野のコーディネーターから報告があり, 分野を超えての情報共有および意見交換が行われました。また, 各分野からは, 本学とマヒドン大学のダブルディグリープログラムの学生や, 共同研究を実施している若手研究者から, 研究活動や経験について話題提供が行われました。総括討論では, 縄田栄治 国際戦略本部 ASEAN 拠点所長が座長を務め, 最新の共同研究や教育連携を基点に活発な議論が交わされました。

最後に, Thanapat Wanichanon マヒドン大学工学研究副科長と, 勝見 武 地球環境学堂長による閉会の辞をもって, ワークショップは閉幕しました。

本学とマヒドン大学の共同研究および教育活動に関する活発な情報交換がなされたことはも



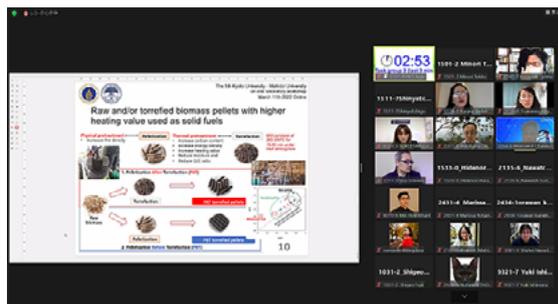
河野泰之副学長による
開催挨拶



Mahaisavariya マヒドン
大学学長による開催挨拶



Parallel Research Sessions



Special Session “Decentralized water and waste management systems in rural areas”



Closing session



もちろん、研究・教育における協働が新たに創出され、実りある会となりました。本学およびマヒドン大学双方の学内における活動は着実に成果をあげており、今後の展開が期待されます。

(地球環境学堂・地球環境学舎)

[目次に戻る ↗](#)

第7回京都大学・日本財団 森里海シンポジウムを開催

3月19日(土)に第7回京都大学・日本財団 森里海シンポジウム「変わりゆく森里海—フィールドからの報告とメッセージ」をオンラインで開催し、130名が参加しました。

シンポジウムでは、フィールド科学教育研究センターの小林和也 准教授から北海道研究林の森林生態系に関する研究成果、同センターの下村通誉 准教授からは和歌山県白浜町の高産無脊椎動物の自然史学的研究の紹介、霊長類研究所の半谷吾郎 准教授から鹿児島県屋久島のヤクシマザルに関する調査結果について、それぞれ現地からの報告がありました。

続いて、講演者からのメッセージとして、滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの法理樹里 研究員より、環境意識調査の結果から森里海連環の未来を思い、「ちょっと幸せになれる」方法、環境省自然環境局の松木崇司 課長補佐より、奄美・沖縄の世界自然遺産の登録と今後に関して、それぞれ講演がありました。それぞれの報告や講演に対して参加者からオンラインで質問が寄せられ、講演者から追加説明やコメントがありました。

最後のパネルディスカッション「高校生と未来を考える」では、連携高校の高校生から「変わりゆく森里海」について意見が出されました。畑の休耕地に設置された太陽光発電システムが生物多様性に与える影響や、地域の人とともに昆虫のモニタリング調査を進める方法などについて、高校生とパネリストの間で質疑応答や意見交換がありました。その後閉会挨拶があり、シンポジウムは盛況のうちに終了となりました。

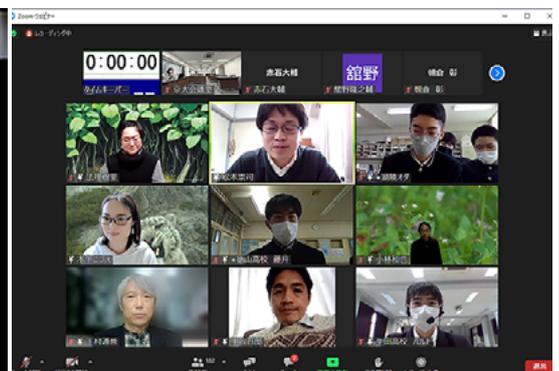
【関連リンク】

森里海シンポジウム案内

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/event/2022-02-15-0>



下村准教授からの報告



パネルディスカッション

(フィールド科学教育研究センター)

[目次に戻る ↗](#)



京都大学創立 125 周年記念 第 17 回京都大学附置研究所・センターシンポジウム／京都大学松山講演会を開催

附置研究所と研究センターにより構成される研究連携基盤は、京都大学創立 125 周年記念 第 17 回京都大学附置研究所・センターシンポジウム／京都大学松山講演会「京都からの挑戦—地球社会の調和ある共存に向けて」を、3月5日(土)に愛媛県松山市の松山市民会館において開催しました。

本シンポジウムは、基礎研究において独自の研究業績を持つ本学の 19 の研究所・センターが、それらの成果を社会に還元することを目的として、2006 年から毎年 1 回各主要都市で開催しているものです。第 17 回となる今回は、「パラダイムシフト—新しい世界を創る京大」をサブテーマとして開催しました。

今回のシンポジウムは、コロナ禍により団体での参加が困難な高校生などに配慮し、会場での開催に加えて、初めてオンライン配信も実施し、計 362 名の参加がありました。うち、中学・高校関係では愛媛県内をはじめとして 23 校 65 名が参加しました。昨年同様、感染症防止のため収容率の 50% 以内を定員とし、会場参加者には事前に問診票を送付して体調を確認するなど、万全を期して実施しました。

時任宣博 理事・副学長による開会の挨拶の後、宮内雄平 エネルギー理工学研究所教授、小坂田ゆかり 防災研究所助教、牧野和久 数理解析研究所教授、緒方広明 学術情報メディアセンター教授、館野隆之輔 フィールド科学教育研究センター教授、内田由紀子 こころの未来研究センター教授、清水延彦 経済研究所特定准教授による 7 つの講演を行い、それぞれの研究成果をわかりやすく発表しました。また、講演終了後には、寄せられた質問に対して講演者が答え、より理解が深められました。

続くパネルディスカッションでは、渡辺隆司 研究連携基盤長(生存圏研究所教授)の司会により、湊 長博 総長、時任理事・副学長と 7 名の講演者が、「学問がリードするパラダイムシフトとは？」について意見交換を行いました。

最後に湊総長が総括および閉会の挨拶を行い、シンポジウムは盛会のうちに終了しました。



パネルディスカッション



湊総長による総括および閉会の挨拶

(研究連携基盤)

[目次に戻る ↗](#)

京大で学んだ 自由と好奇心の大切さ

井上 聡



私は電池検査装置メーカーのセイワ技研（大阪府）と非破壊検査装置メーカーのジーネス（京都府）の二社をオーナーとして経営しています。高い技術力と大企業の顧客を持ちながら、後継者がいないメーカーの事業を引き継ぐことで、社員・技術・取引先を守っていくことをライフワークとしております。人に恵まれ、縁を大切に、好奇心に導かれてキャリアを積み重ねてきました。これまで経験した職種はオーナー経営者、海外現地法人のトップ、ベンチャー起業家、政治家、外資系経営コンサル、商社マンで全てを経験した人は世の中になかなかいないのではないのでしょうか。

京大卒業後、新卒で三菱商事に入社しました。金属グループに配属され、バブル崩壊後の厳しい時期で経営破綻企業の再生の仕事が中心でした。その時に触れた経営の仕事が面白くて、研鑽を積むべくPwCに経営コンサルとして転職しました。その後、学生時代から関心があった政界とのご縁を頂き、国政を目指す第一歩として舞鶴市議に当選しました。一期務めた後、国政に向かう難しさを実感し、経営の世界に戻ることにしました。野菜工場の普及により農業の工業化を目指すベンチャー企業のCOOとして三菱化学との業務資本提携や30億円を超えるファイナンスを行った後、その会社を売却しました。その後はメーカーのイタリア現地法人を立上げ、社長として経営を行い軌道に乗せました。そうして経営経験を積んだ後、現在経営をしている二社を買収により事業承継して今に至っています。

京大で学んだことは、多士済々の先生方、同窓生と切磋琢磨する中で自然と身についた自由と好奇心の大切さです。キャリアを歩む中で自由を得ることを優先してきました。昨今、FIRE（Financial Independence, Retire Early）という言葉をよく聞きますが、その意味する経済的な自由に加えて、時間の自由、人間関係の自由も同じくらい大切だと思っています。この3つの自由があれば、好きな仕事・趣味がいつでもできます。また、会いたい人といつでもどこでも会えますし、逆に会いたくない人とは会う必要がなくなります。人的ネットワークを大きく広げることができる上に、人間関係によるストレスがフリーな人生を送ることができます。

同様に好奇心も大切にしてきました。これまで面白そうだと思ったことに、幾度もチャレンジしてきました。様々な経験を通じて視野が広がりますし、経験を通じて学ぶことで、より深い学びが得られます。人生を振り返っても無駄な経験は無く、今の仕事・生活にすべてが活かされています。新しいフィールドでは苦勞はありますが、苦勞は後から役に立ちますし、苦勞した人間はタフで強いです。新しい世界に飛び込み、新しい自分を発見するという最高の経験を味わって頂きたいです。好奇心を持ってチャレンジすることは、人生100年時代を楽しくエキサイティングに生きていくことにつながると確信しています。

（いのうえ さとし、株式会社セイワ技研代表取締役社長、
株式会社ジーネス代表取締役社長、平成6年経済学部卒業）

[目次に戻る ↗](#)

随想

沈黙の声に耳を傾ける

名誉教授 藤田 正勝



ふだん、私たちは騒音に取り囲まれて暮らしている。自動車のクラクションも、テレビから聞こえる声も大きくてけたたましい。森のなかの葉ずれのかそかな音も、子どもの発する小さなつぶやきも、苦しむ人の小声の訴えも、その音にかき消されて聞こえない。

詩人の長田弘は、詩集『奇跡 ミラクル』の「あとがき」のなかで「ふと、呼びかけられたように感じて、立ちどまる。見まわしても、誰もいない。ただ、自分を呼びとめる小さな声が、どこからか聴こえて、しばらくその声に耳を澄ますということが、いつのころからか頻繁に生じるようになった」と記す。この自分を呼びとめる小さな声を長田は「沈黙の声」とも言い表している。この「沈黙の声」を書きとめることが詩の役割なのだと語っている。

騒音のなかにいる私たちにはこの小さな声は聞こえない。日々追い立てられて暮らしている私たちは、そこにある風景に目をやることもない。視野をよぎってもそれに注意を向けることはない。日々の営みのなかに埋没したかそかな声に耳を傾ければ、あるいは背景に沈み込んだもののおぼろな姿に目を凝らせば、私たちの世界はもっと豊かなものになるに違いないのに。

そのようなことを考えていて、頭をよぎったのは、芭蕉の次の句である。

よくみれば 薺なずな花さく垣ねかな

なずなというのはペンペン草という別名をもつ雑草の代表のような草である。小さい白い花をつけるが、地味でそれに目が向けられることはほとんどない。その花に芭蕉は目を留め、その地味な花が持つ美しさに動かされている。

「よく見れば」というのは、ただ単に「よく観察すれば」ということではないであろう。日常の生活の延長上で、以前よりもよく観察したということだけでなく、日常のものを見る目、ものを見る立場というものを超えたということが、その言葉によって語られているように思われる。「生活のために」という枠が外れ、それまでは見えなかったもののありようが目に入ってくる。そこでは、ものを見る目が変わり、世界の経験のされ方が変わってくる。そこに見いだされる美を芭蕉は言葉にしたのである。

しじまのなかから聞こえてくる小さな声に耳を傾け、風景のなかに埋没したかそかな美に目を向けることは、一見したところ、むだな営みのように見える。しかしそこからほんとうに豊かな世界が広がっていくのではないだろうか。

(ふじた まさかつ、平成 30 年退職、元大学院総合生存学館／文学研究科教授、
専門は哲学・日本哲学史)

[目次に戻る ↗](#)

洛書

宇治から架かる橋

倉田 真宏



京都大学の建築学科を卒業した後、イタリアパヴィア大学の耐震工学コースに留学する機会を得た。2003年春先の出来事である。欧州を中心に各国から集まった学生が、これまた世界から集まった著名な研究者の集中講義を受ける、生まれたての大学院だった。欧州では、1992年から順次公開された構造基準の試用期間が終わり、2000年にユーロコードとして成立していた。構法（例えば、鉄筋コンクリート構造）の講義は、ユーロコードを軸に展開された。教科書を予習して臨んだが、欧州の設計基準を知らなかった私は面食らった。基準Aに記載があるB設計式と説明を受けてもチンプンカンプン。京都大学で受けた教育は理論の習得を目指しており、実務で使う設計式を用いた演習は少なかった。時は下り、欧州域外でもユーロコードは国際基準の地位を確立した。教育は普及活動の一翼を担っている。

小恥ずかしい話をする。大学院の修了には3科目以上でC+（70点）以下を取った学生は追放というルールがあった。構法の2科目でいきなりC-, Dを取った私は、留学3ヶ月目にして土俵際に追い込まれた。学友の大応援、語学力の向上、理論主体の講義での健闘により無事に必要単位を取得し修士論文を提出した。日本の大学では、“不可”をいくつ取っても必要単位数を満たせば卒業できる。やや緊張感に欠ける。膨大な課題に追われるなか、睡眠を削ってイタリア生活を共に楽しんだ学友は、今も気軽に声をかけ合える大切な仲間だ。

イタリアでの綱渡りの生活も終わりには、勉学や研究を続ける自信が芽生え、薫陶を受けた著名な研究者への憧れを胸に渡米した。ジョージア工科大学で博士号を取得し、ミシガン大学に研究員として就職した。博士課程の恩師は一回りほど年上、就職先の上司はほんの3歳上であった。高い能力に加えて人を引き付けるCharmを持った彼らは、惚れ惚れする速さで出世している。私立の名門ライス大学に移籍した恩師は選挙を勝ち抜き、今夏には総長に就任する。彼はハイチ出身の黒人移民として快挙を成し遂げた。上司は今年、私立の名門デューク大学の工学部長にヘッドハンティングされた。40代後半から50代前半の気鋭の二人が大学教育を先導する姿に刺激を受ける。

私が勤める宇治キャンパスは、平安時代には仏道を志して修行に励む“俗聖”が住まう土地であった。宇治十帖に登場する八の宮は、都の喧噪から離れて宇治川東岸に居を構えたそうだ。学業や研究に励むには、宇治の地は最適ではないか？宇治橋のたもとには平安時代創業のお茶屋がある。京都や大和へと道を行きかう旅人は、橋を渡る前に一服の茶で身を清めたそうだ。私の海外見聞は、4回生で門戸を叩いた宇治の研究室に端を発する。何かと騒がしい時代だが、世界への橋を渡ってみたい学生が訪れたら上等なお茶でもてなしたい。

（くらた まさひろ、防災研究所准教授、
専門は耐震工学、構造ヘルスマニタリング、病院防災）

[目次に戻る ↗](#)

栄誉

村上章 理事・副学長，野田進 工学研究科教授が日本学士院賞を受賞

このたび、村上章 理事・副学長，野田進 工学研究科教授が第112回（令和4年）日本学士院賞を受賞することになりました。日本学士院賞は、学術上特に優れた研究業績に対して贈られるもので、日本の学術賞としては最も権威ある賞です。

村上章 理事・副学長，名誉教授

村上章 理事・副学長は、昭和53年京都大学農学部を卒業、同55年同大学大学院工学研究科修士課程を修了し、平成3年農学博士の学位を取得しました。兵庫県庁、京都大学農学部助手、米国コロラド大学ボルダー校客員研究員、京都大学農学部助教授を経て、平成11年岡山大学環境理工学部教授に就任しました。その後、同21年京都大学大学院農学研究科教授（令和3年3月定年退職）、同31年農学研究科長・農学部長を経て、令和2年に京都大学理事・副学長に就任し、現在に至っています。



今回の日本学士院賞の研究題目は、「カルマンフィルタによる逆解析法の展開と地盤工学への応用に関する研究」です。村上理事・副学長は、カルマンフィルタの条件付き確率論に基づき、正則化項を付加することにより、過去の地盤変形の記録から、複数の地盤定数が推定できることに着目しました。そして、地盤の挙動を表す有限要素法と組み合わせた逆解析法により、世界に先駆けて推定精度の良い地盤定数の推定法を確立しました。本研究以前は、地盤定数は一定として扱われ、実際の地盤定数は未知であり推測にとどまっていたのですが、本研究によって初めてその変動状況が明らかにされました。そして、飛躍的に推定精度の高い地盤変形の予測を可能としました。さらに、この理論は地盤変形による危険予知にも道を拓き、貯水池・ダム崩壊予測、高水圧化のトンネルの掘削速度の調整、地下に存在する空洞の位置・形状の予知などを可能にしました。これらの研究成果は日本各地の地盤変形予測や危険予知に実際に広く役立っており高く評価されています。

なお、村上理事・副学長の卓越した業績に対し、平成8年土木学会論文賞、同19年農業農村工学会沢田賞、同20年地盤工学会研究業績賞、令和3年日本農業工学会賞、土木学会応用力学功績賞、同4年日本農学賞および読売農学賞など、多数の賞が授与されています。

[目次に戻る ↗](#)

栄誉

野田 進 工学研究科教授

野田 進 工学研究科教授は、昭和57年京都大学工学部を卒業、同59年同大学大学院工学研究科修士課程を修了し、三菱電機株式会社中央研究所基礎研究部主員を経て、同63年京都大学工学部助手として採用、平成3年京都大学博士（工学）を取得しました。その後、同4年同助教授、同12年同教授に就任、同21年からは工学研究科附属光・電子理工学教育研究センター長を併任し、現在に至っています。

今回の日本学士院賞の研究題目は「フォトニック結晶による光制御法の極限的開拓と半導体レーザ高度化への応用」です。野田教授は、屈折率が異なる2種類の素材を光の波長ほどのピッチで整然と並べた「フォトニック結晶」と呼ぶ人工構造の研究を先導し、独自の構造を考案・製作することで、光の波を極限的に制御する道を拓きました。これにより、様々な光学的性質や機能が実現でき、また、半導体レーザの性能や機能が格段に高度化できることを示しました。特に、微細な孔を規則的に設けた厚さ0.5 μm 以下の極薄膜に、孔のない極微領域を設け、その近傍の孔の配列を工夫することで、光の漏れの極めて少ない、性能指数(Q値)が1千万に及ぶ、極微小共振器として機能することなどを示しました。また、膜面に微細孔を周期的に設けた構造を発光層近傍に埋め込んだ半導体レーザ(=フォトニック結晶レーザ)を発明し、発光層の面積を拡大しても光のモード(姿態)が乱れず安定した状態で発振可能なことを示すとともに、今後のスマート社会(自動運転等)に不可欠なレーザ・レーダなどに適した高出力かつ高品質の光ビームが出射可能なことなどを実証しました。

なお、野田教授の卓越した業績に対し、これまでも平成18年米国光学会 Joseph Fraunhofer Award/Robert M. Burley Prize, 同21年文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門), 同26年紫綬褒章など、多数の賞が授与されています。

[目次に戻る ↗](#)

訃報

このたび、塩谷雅人 生存圏研究所元所長・教授、柴田俊忍 名誉教授、三浦 精 名誉教授、森 時彦 名誉教授が逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。以下に各氏の略歴、業績等を紹介いたします。

塩谷 雅人 生存圏研究所元所長・教授

塩谷雅人先生は、2月9日に逝去されました。享年63。

先生は、昭和57年3月京都大学理学部を卒業、同59年3月同大学大学院理学研究科修士課程を修了、同62年3月同大学大学院理学研究科博士後期課程を修了し、理学博士の学位を授与されました。同62年11月京都大学理学部助手に採用され、平成4年6月から1年間、文部省在外派遣研究員として米国立大気研究センターに派遣されました。同7年4月北海道大学大学院地球環境科学研究科助教授に転任、同10年11月同教授、同13年4月京都大学宙空電波科学研究センター教授、同16年4月同大学生存圏研究所教授、同21年4月同大学次世代開拓研究ユニット長（併任）を歴任されました。令和2年4月から生存圏研究所長として「生存圏科学の共同利用・共同研究拠点」の活動を高め、生存圏科学の発展と振興のためご活躍中のところ、志半ばにして逝去されました。



先生は、永年にわたって「グローバルな衛星観測情報の解析や熱帯域を中心とした現場観測にもとづく中層大気の力学過程の研究」に従事され、衛星観測データ・客観解析データおよび観測的研究を基盤として、対流圏から成層圏にまでおよぶ大気大循環像を明らかにされました。とりわけ、赤道付近の下部成層圏において東風と西風が約2年の周期で交代する“準二年周期振動”に関する一連の研究は、成層圏力学過程の普遍的本質を捉えたものとして高く評価されています。また、一般的な地上気象観測すら行われていなかった赤道太平洋上で、島嶼や移動船舶をプラットフォームとして活用し、オゾンや水蒸気等の鉛直分布を観測するという挑戦的なプロジェクト SOWER/Pacificを提案・遂行され、対流圏と成層圏の物質交換過程に関する新しい理論を提唱されました。これらの功績により、平成14年に日本気象学会賞を受賞されました。近年では、国際宇宙ステーションを利用した地球環境観測ミッション SMILES（超伝導サブミリ波リム放射サウンダ）計画の主査として、我が国の高度宇宙開発利用の推進に貢献され、その成果は、国連環境計画と世界気象機関が発行する「オゾン層破壊の科学アセスメントレポート」にも収録されるなど多大な功績を残しました。

教育と研究指導においては、北大と京大で教員として学生教育・研究指導を行われたほか、京都大学総合生存学館・総合生存学専攻教授、大学院横断教育プログラム推進センター・グローバル生存学リーディング大学院プログラムコーディネータ、次世代開拓研究ユニット長を併任され、新規分野開拓や異分野融合を推進する新しい人材育成・研究拠点の形成に尽力されまし

た。学外においては、日本気象学会理事や日本学術会議委員など多数の役職を務められました。国際的にもWCRP（世界気候研究計画）、SPARC（成層圏プロセスとその気候における役割の研究）等の委員を務められました。

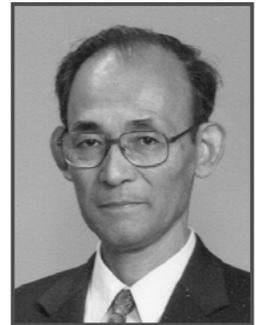
(生存圏研究所)

[目次に戻る ↗](#)

柴田 俊忍 名誉教授

柴田俊忍先生は、2月20日逝去されました。享年85。

先生は、昭和34年3月京都大学工学部機械工学科を卒業、同36年3月同大学院工学研究科修士課程機械工学専攻を修了、同40年3月同博士課程を修了し、京都大学工学博士の学位を授与されました。昭和40年4月京都大学工学部助教授に採用され、同58年4月教授に就任、機械工学科材料力学講座を担当されました。その後、大学院重点化に伴い、平成8年4月大学院工学研究科機械工学専攻機械材料力学講座を担当されました。平成12年停年により退職され、京都大学名誉教授の称号を受けられました。



この間永年にわたって、学内においては学生の教育と研究者の指導に当たり、多くの人材を養成されました。また、学外においては、建設省および労働省の事故調査委員、通産省高圧ガス保安調査委員、環境庁低周波公害調査委員、京都府警察本部科学捜査研究所部外協力委員等を務め、事故・災害防止に関する学術的知識を必要とする行政に尽力されました。

研究面においては、材料の疲労強度評価、材料特性と応力の非破壊評価、各種機能材料の力学的特性評価など、材料力学分野で優れた研究業績を残され、その発展に寄与されるとともに、機械と人間との接点における安全を主なテーマとして、交通事故や労働災害の原因分析と防止法などの研究に取り組み、安全工学の分野でも多大な貢献をされました。これらの研究成果は、100編の学術論文にまとめられ、国内外で高く評価されています。このように、先生は、材料力学、安全工学などの分野において、斯学の進歩に大きく貢献されました。

(大学院工学研究科)

[目次に戻る ↗](#)

訃報

三浦 精 名誉教授

三浦 精先生は、3月11日逝去されました。享年90。

先生は、昭和29年3月京都大学工学部冶金学科を卒業、同31年3月同大学院工学研究科修士課程冶金学専攻を修了、同年4月株式会社日立製作所に入社し金属工業実務に従事されました。同32年3月同社を退社、同年4月京都大学大学院工学研究科博士課程冶金学専攻に入学、同33年9月よりフルブライト留学生として1年間米国ノースウエスタン大学大学院に留学の後、同34年8月より京都大学工学研究所原子炉材料部門X線実験室において研究に従事されました。同年9月より同研究所助手に採用され、同36年4月工学部助教授に昇任、同43年4月より同志社大学教授を経て、同54年4月京都大学工学部教授に就任し、物理工学科材料物性学講座を担当されました。この間、同41年11月には京都大学工学博士の学位を授与されました。平成7年3月に停年により退職され、同年4月京都大学名誉教授の称号を受けられました。

この間永年にわたって学生の教育と研究者の指導に当たられ多くの人材を育成し、学外においては、昭和49年5月より2年に渡り日本材料学会編集委員長を務められました。また、材料の強度や結晶粒界・界面あるいは相変態に関する多くの国際会議の企画、運営を担当されました。特に平成2年にモスクワで開催された「日-ソ粒界・界面セミナー」、同年東京で開催された「日-露粒界・界面セミナー」、及び平成5年東京で開催された「第三回先端材料国際会議」では、主催者の一人を務められました。

研究面においては、結晶塑性、結晶粒界・界面、相変態に関する材料物性学的研究、主として結晶塑性と粒界・界面に関する研究で多くの業績を挙げておられ、日本金属学会功績賞（金属物理部門）、日本材料学会論文賞、日本機械学会（技術）賞、日本材料学会技術賞、日本銅センター賞を受賞されています。このように、先生は、材料物性学の分野において指導的役割を果たされ、斯学の進歩に大きく貢献されました。

(大学院工学研究科)

[目次に戻る ↗](#)

森 時彦 名誉教授

森 時彦先生は、3月29日逝去されました。享年74。

先生は、昭和46年3月に京都大学文学部を卒業、同48年3月に同大学大学院文学研究科修士課程（東洋史学専攻）を修了、同49年3月に同博士課程を退学、同年4月に京都大学人文科学研究所助手に採用され、同59年4月より愛知大学法経学部助教授、同63年4月京都大学人文科学研究所助教授を経て、平成7年4月には同教授に昇任、その後同24年3月に定年退職され、同年4月に京都大学名誉教授の称号を贈られました。この間、平成13年3月に、京都大学博士（文学）を授与され、また同15年4月から17年3月まで、



訃報

京都大学人文科学研究所所長を務められたほか、多年にわたり、同研究所の東方部主任、および附属漢字情報研究センター長（平成15年4月から同21年3月まで）、同じく附属現代中国研究センター長（同19年4月から同23年3月まで）などを歴任されました。本学退職後は、平成25年4月から5年間、帝京大学文学部、同経済学部の教授を務められました。

先生は多年にわたり、中国近代史の教育・研究に努められましたが、特に1980年代後半より十数年の歳月をかけて取り組まれた中国近代の社会経済史、特に近代綿業史に関する研究は、先生の名を内外に広く知らしめるものでした。アヘン戦争前後から20世紀前半に到る中国綿紡績業の変容を定量的に計測することによって、中国の伝統社会・経済が西洋近代に遭遇したのちに遂げた変化を、客観的に記述せんとするその試みは、それまで不可能と言われた確かな中国近代経済データの収集・算出という基礎作業を基盤として、中国経済の変貌をトータルに描き出すという画期的な著作『中国近代綿業史の研究』（平成13年刊）に結実しました。同書は平成22年に中国語版『中国近代棉紡織業史研究』としても刊行され、今日でも中国近代経済史のスタンダードとして、内外の学界で極めて高い評価を受けています。

上記の個人研究のほか、先生は通算34年にわたって在籍した人文科学研究所において、「中国近代の都市と農村」「中国近代化の動態構造」「長江流域社会の歴史景観」など、数々の中国近代史関連の共同研究班の主宰者として、同研究所附属現代中国研究センター長として、関西一円の中国近現代史研究を牽引してこられました。一方、折りからの国立大学法人化に伴う部局運営体制の転換期にあって、先生は人文科学研究所長を務められ、研究行政や組織運営の面でも、卓越したリーダーシップを発揮されました。

(人文科学研究所)

[目次に戻る ↗](#)

京大広報
No.762

令和4年5月25日 発行

発行 京都大学総務部広報課
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
E-mail:kohho52@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※ご意見・ご感想をお寄せください。
「京大広報」の既刊号は、次のURLでご覧いただけます。
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/kouhou/>

京大力、新輝点。



2022年、京都大学は創立125周年
URL:<https://125th.kyoto-u.ac.jp>